

# 令和3年度 府中市立南白糸台小学校 学校経営報告

校長 森嶋 正行

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策が求められる中での教育活動となりました。同じコロナ禍でも予定された教育活動はできるかぎり中止にせず、創意工夫しながら児童に多くの体験をさせることや保護者に教育活動の実態を観ていただく授業公開を実施することができました。以下令和3年度学校経営の報告をいたします。

## ◇学校教育目標

持続可能な社会の創り手として、共生社会を豊かな創造性と人間性で、主体的に生き抜く児童を育成するため、次のとおり、学校の目標と、これを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。

- ・進んで学ぶ子ども 様々な課題を主体的に解決しようとする児童 :「社会参画力」
- ・助け合う子ども 違いを認め合い、みんなと共に生きていこうとする児童:「人間関係形成力」
- ・たくましい子ども なりたい自分に向けてあきらめないで努力する児童 :「自己実現力」

## ◇目指す学校 「希望と夢のあふれる学校～共生社会でよりよく生きる力の育成」

全教職員がチームとなり、地域の児童を保護者、地域の方と共に育む希望と夢のあふれる学校を目指す。

### (1)笑顔あふれる活気ある学校

- ・子供のよさを認め、分かる授業づくりを通して“学校が楽しい”100%の学校
- ・南白小チームとして、全教職員が創造性を働かせ、信頼と期待を寄せられる活気ある学校

### (2)希望あふれる創造性のある学校

- ・創造性は希望の源泉。負けない子供、あきらめない、逞しい子供を育成する学校
- ・子供、教職員、保護者・地域の皆様の誰もが誇りに思う学校

### (3)優しさあふれる誠実な学校

- ・“ありがとう”の心があふれる、心を繋ぐあいさつのある学校
- ・子供の思いと保護者の願い、地域の声に誠実に対応する学校

## 1 令和3年度の主な教育活動

- 4月6日(火) 入学式を実施 :保護者1名のみ参列、時間を短縮して挙行
- 5月13日(木)14日(金)18日(火) 2学年ごとに授業参観を実施
  - ・参観できる授業を指定し、御家庭一人限定での授業参観
- 6月11日(金) 児童会「南白まつり」を実施
  - ・代表委員会で感染症対策を話し合い、高学年は屋上(5年)、校庭(6年)で店を開く。
- 6月1日(火)から7月20日(火) 水泳授業実施
  - ・感染症対策の為、2学級ごとに実施し、児童は声を出さない指導を行う。夏季水泳指導は中止
- 6月17日(木)から6月19日(土)5年セカンドスクール延期⇒11月8日(月)9日(火)1泊2日で実施
- 7月1日(木)2日(金)5日(月)6日(火) 2学年ごとの授業公開 ※1学期末保護者会:全学年書面開催
- 7月25日(日)から7月27日(火) 6年日光林間学校延期⇒11月28日(日)29日(月)1泊2日で実施
- 10月6日(水) 聖火と心に火を灯せ!(運動会)実施:保護者参観なし。表現、短距離走のみで実施
- 10月7日(木) 6年連合陸上記録会中止⇒10月27日(水)校庭で学校独自で実施
- 10月20日(水)21日(木)22日(金) 2学年ごとに授業参観を実施
- 11月19日(金)20日(土) 展覧会開催 :体育館内の参観者を70名に限定し、参観をお願いした。
- 11月29日(月)12月2日(木)12月3日(金) 道徳授業参観・保護者会を開催:道徳授業地区公開講座
- 1月21日(金) 府中市教育委員会研究協力校研究発表会実施(オンライン)
- 3月11日(金) 児童会「6年生を送る会」開催:ビデオ録画したものを全校で視聴
- 3月10日(木) 6年「感謝の会」学年保護者会実施:1年から5年保護者会は書面開催
- 3月22日(火) もう一つの卒業式挙行
- 3月25日(金) 卒業式挙行 :保護者2名参列、時間短縮して挙行

## 2 教育活動の実際

### 【特別活動】

#### ◇令和2、3年度府中市教育委員会研究協力校の取組

- ・令和4年1月21日(金)研究発表会(オンライン)を開催し、市内外の教育関係者に本校の実践を紹介  
(研究主題)「自他を大切に、よりよい学級・学校生活を築こうとする児童の育成  
～自主的・実践的な集団活動を通して～」

〈目指す児童の姿〉

- ①自分の思いや願いをもって、意欲的に取り組む子
- ②自他のよさや差異を認め合い、大切にする子

〈研究の手立て〉

- 教室環境の整備・・・学級会コーナー、係活動コーナー、学級のあゆみ
- 学級活動の充実・・・学級会ノートの活用や学級会セットや学級活動セットの統一
  - 学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」
  - 学級活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」
  - 学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」

児童会活動の充実・・・委員会活動、クラブ活動、たてわり班活動

#### ◇あいさつミッション・ちょボラ(ちょこっとボランティア)運動・あったか言葉かけ運動の展開

#### ◇児童の主体的な活動を目指した児童会活動、クラブ活動、たてわり班活動の充実

- ・児童会活動と全校児童とのつながり

南白小にあいさつが溢れるための工夫

「あいさつ宣言」の作成(各学級)、「あいさつミッション」の実施(全校)

どんな時でも前向きに頑張れる南白小にするための工夫

「南白小スローガン」の作成

「ダイヤモンドなどときも おもいやり などでも あきらめないでみんなの思いをつなごう！全校で」  
運動会を盛り上げる工夫

大会名、スローガン決め:運動会 各学級・代表委員から集めた意見を基に話し合い

大会名「聖火と心に火を灯せ！南白オリンピック」

スローガン「どんなときでもフルパワー！全校で絆を結んで限界をこえろ」

協賛委員会による自主的な取組

例)図書委員会:運動や運動会に関する本の読み聞かせ

- ・たてわり班活動の取組

異年齢児童で構成するたてわり班活動を通して、望ましい人間関係を築く力を育成

#### 児童アンケート結果(昨年度との比較)

◇自分からすすんであいさつをする

- ・・・A そう思う54% B だいたいそう思う35% C あまりそう思わない9% D 思わない2%  
AB3%増加 D1%減少

◇友達に優しくしようと心掛けている。(3年～6年)

- ・・・A そう思う78% B だいたいそう思う19% C あまりそう思わない3% D 思わない0%  
AB1%減少 C1%増加

#### 保護者アンケート結果(昨年度との比較)

◆児童は、日常のあいさつや返事が身に付いている。

- ・・・A そう思う30% B だいたいそう思う60% C あまりそう思わない7% D 思わない1% 分からない2%  
AB3%増加 A5%増

◆児童は、お互いの良さや頑張っていることを認め合って生活している。

- ・・・A そう思う34% だいたいそう思う59% あまりそう思わない3% 思わない0% 分からない3%  
AB 変化なし A2%増加

## 研究校としての成果と課題

### 学級活動の話合い活動

- ・提案理由を意識して話し合うようになってきた。(低)
- ・議題で「みんなで」という言葉が多くなってきた。みんなで話し合い、みんなで活動することの楽しさがわかってきた。(低)
- ・相手の話を意識して聞くことができた。「～さんの付け足しで」「～さんと似ていて」と言えるようになってきた。(低)
- ・少数意見でも、周りが受け入れてくれることがわかってきた。(低)
- ・みんなのがんばりやよいところに目を向けられるようになってきた。(低)
- ・自分のことだけではなく、友達のことを考えられるようになってきた。(中)
- ・人が喜んでくれるとうれしいことがわかってきた。(中)
- ・周りのことを考え、より工夫したアイデアが出せるようになった。(中)
- ・賛成か反対だけでなく、合体案を出せるようになった。(中)
- ・提案理由に沿って自分の考えをもつことができるようになった。(中)
- ・学級活動(2)(3)では、自分事として課題を捉えられるようになった。(中)
- ・何のためにやるのかを自分たちなりに考えて話し合ったり実践したりできるようになってきた。(全)
- ・クラス全員で決めようという意識が生まれ、納得するまで話し合おうとする姿勢が見られるようになった。(全)
- ・実践活動の振り返りでは、今回の反省点を考え、次はどう行動するとよくなるのか、考えることができた。(全)
- ・「〇〇をすれば、この意見をできるようにしたいと思います。」など賛成反対のみの意見ではなく、合意形成をしていくための発言をすることができる児童が増えた。(全)
- ・自分たちの学級だけではなく、学年や他学年、学校全体の課題に目を向けて考えられるようになってきた。(全)
- ・アンケートや振り返りを丁寧にいき、活動を改善していけるようになった。(全)



### 他教科

- ・分かりやすく短い言葉で自分の考えを話せるようになった。
- ・ただ話を聞くのではなく、話している人が何を伝えたいのかを意識して話が聞けるようになった。
- ・友達のを聞き、自分なりの言葉で説明しなおしたり、付け足したりできるようになった。
- ・比較をさせることで、共通点と相違点を見つける力が育った。
- ・自ら学習問題を立てたり、問題からめあてを考えたりと、目的意識をもって学習に取り組めるようになった。

### 研究の成果

- ① **自分の思いや願いをもって、意欲的に取り組む子**
  - ・相手のことを思っ、すすんで行動しようとする姿や、よりよい集団を目指して意欲的に取り組む姿が各学年でも見られ、学校全体の雰囲気よくなってきた。
  - ・コロナ禍でもできることを積極的に考え、自分たちで豊かな活動をつくることできるようになった。
- ② **自他のよさや差異を認め合い、大切にする子**
  - ・相手の気持ちや立場に立って、友達を大切にしようとする児童の姿が見られ、一人一人を大切にしようとする態度が育ってきた。

### 行事

- ・南白まつりでは、自分たちが楽しむだけでなく、お客さんが楽しんでくれるようにと相手意識をもって取り組むようになった。
- ・クラスのみんで作り上げていく意識をもち、実行委員を中心にみんなの意見をアンケートで吸い上げ、まとめていけるようになった。
- ・南白オリンピックでは、音響トラブルのあった学年に対し、他学年が、拍手や声援で、自主的に励ます姿が見られた。
- ・コロナ禍でもみんなのために頑張っている6年生に、5年生が陸上記録会に合わせてエールを贈るサプライズを考えた。

### 係活動ほか

- ・自分が使ったものではなくても、学級のためにすすんで行動して片付けなどができるようになった。
- ・学年の実行委員の取組によって、学年全体に思いを伝えられる子が増えた。
- ・行事の中での協賛委員の取組で「自分たちで行事を作っていく」という思いが出た。
- ・メモを活用し、コミュニケーションをよくとることで、遅れている仕事をフォローし合うようになった。
- ・みんなで楽しむために、どうしたらよいか考え、児童が主体的に活動できるようになった。
- ・係へのお願いを掲示することで、他者意識をもって活動できるようになった。
- ・見通しをもって活動ができるように、今後の活動をホワイトボードに書いて掲示板に貼っておき、児童が計画的に活動できるようになった。

### 道徳

- ・近くの友達との話し合いを通して、いろいろな考え方や感じ方を知り、それを大事にできるようになった。
- ・自分なりの考えをもって話し合い、他人の意見を聞くことで、さらに自分の考えを深めることができるようになった。
- ・自己の生活を振り返り、日々の行動に反映するように考えさせることで、道徳で学んだ価値を学級活動(2)(3)につなげて考えられるようになった。

### クラブ・委員会

- ・話し合いで何かを決めようという姿勢が育った。
- ・異学年と話し合う場面でも、学級会の手順で話し合うことができるようになった。
- ・自分たちでやりたいことを考え、主体的に企画・行動できるようになった。
- ・代表委員会で自分たちの立場を考えて、発言したり、クラスで決まったことや決めることを正しく伝えられるようになったりした。
- ・計画委員→代表委員会→各委員会、各クラスへ情報共有の流れがスムーズで、自分たちの思いが活用されていると感じている子が増えた。
- ・委員会活動や協賛委員では、異学年でグループを組むことにより、5年は6年を手本に、6年は5年に教えるという関係ができた。

### 研究の課題

- ・学校における教育活動全体で行う「キャリア教育の要」としての特別活動の役割を踏まえ、実生活や実社会で生きて働く汎用的な力に高められるよう、各教科等の学びを生かした特別活動の実践を行う。
- ・頑張っていることはたくさんあるが、子供たちは自己認識できていないため、教師が常々価値付けていく必要がある。
- ・児童が主体的に活動しようという気持ちが育てば育つほど、時間的な厳しさがある。
- ・「自他のよさや差異を認め合い、大切にする」とはどういうことなのかを考えて、学級指導をする必要がある。

## 特別活動の総括と次年度の課題

- ・コロナ禍 2 年目となり、運動会の縮小や宿泊行事の期間の短縮・延期となる中で、できることを児童と教師共に考え、実行する意識で取り組むことができた。
- ・特別活動の取組を通して、児童の自己有用感や自己肯定感が向上した。研究の成果と課題を踏まえ、来年度以降の取組に生かしていく。
- ・特別活動が生きる為には、各教科で身に付けるべき資質・能力の定着が必要である。特別活動と各教科の往還の関係を一層強化していく。

## 【学習指導】 特別活動と各教科との往還の指導を意識して

### ◇学力(思考力、判断力、表現力)の向上/基礎学力の定着

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの問題解決的な学習や体験的な学習など多様な教育方法や内容を工夫することにより、一人一人の個性や能力を生かした指導の充実に努めた。
- ・コロナ禍で対面での話し合いの場の設定が少ない中、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせる工夫のある授業を目指した。
- ・「授業改善推進プラン」を作成・実施し、学力向上を推進した。
- ・1人一台のタブレットや大型提示装置を活用し、主体的に学ぶ学習を目指した授業に取り組んだ。
- ・算数の授業始めの3分間を、計算等の練習時間に設定した。
- ・「めあて」「問題」「自分の考え」「まとめ」等の黒板掲示用のカードを利用した問題解決学習を行った。
- ・東京ベーシック・ドリルの診断テストを年3回実施し、課題を明確にして取り組んだ。

### ◇学び合いを大切にしたい授業の基本を常に確認(授業や教室環境のユニバーサルデザインの推進)

- ・児童の困り感に寄り添った教育環境を創造すると共に、人権教育の充実ににより、お互いを尊重しあい、安心して学ぶ人間関係づくりを目指す。
- ・学び合いを大切にするため、『返事の「はい」』『「立って」発言』『語尾を意識させる「です」』に取り組んだ。
- ・授業の基本的な流れの確認:ねらいの提示→課題解決型学習→まとめ(振り返り)
- ・「しっかりと話を聞く」ことを重視する。話している人に体を向けて聞く。話が終わるまで聞く。
- ・教室前面の掲示は、決められた掲示のみとした。
- ・黒板は全面が授業で使用できるようにした。(基本的に月日日直名のみ)

### 算数:東京ベーシックドリル診断テストの平均値

3 年生【目標 80%】 79%(1 学期)→85%(3 学期)      4 年生【目標 80%】 72%(1 学期)→83%(3 学期)  
5 年生【目標 75%】 67%(1 学期)→70%(3 学期)      6 年生【目標 75%】 64%(1 学期)→75%(3 学期)

### 児童アンケート結果(昨年度との比較)

◇授業で学習したことが分かっている。(全学年)

・・・A そう思う51% B だいたいそう思う45% C あまりそう思わない3% D 思わない1%  
AB3%増加 A3%減少

◇勉強で分からないときは先生に質問する。(3 年～6 年)

・・・A そう思う33% B だいたいそう思う42% C あまりそう思わない21% D 思わない4%  
AB7%減少 C7%増加

◇家で宿題をするなど、勉強する習慣がついている。(3 年～6 年)

・・・A そう思う59% B だいたいそう思う31% C あまりそう思わない8% D 思わない21%  
AB3%減少 A14%減少

### 保護者アンケート結果(昨年度との比較)

◆児童は、学習内容を理解しようと意欲的に取り組んでいる。

・・・A そう思う30% B だいたいそう思う62% C あまりそう思わない2% D 思わない0% 分からない5%  
AB2%増加 C5%減少

◆教師は、一人一人の理解状況に合わせて、基礎学力の定着を図るように工夫している。

・・・A そう思う28% B だいたいそう思う53% C あまりそう思わない5% D 思わない2% 分からない11%  
AB5%増加 A7%増加 C5%減少

◇読書活動を推進し、創造性や豊かな心を育み、生涯にわたる学びの姿勢の基礎を培う。

- ・毎週火、金曜日の朝読書と春と秋の読書旬間を実施
- ・学年の実態に応じた読書記録の活用
- ・各教科や総合的な学習の時間での調べ学習で、学校図書館を積極的に活用
- ・児童が読書に意欲的に取り組めるように、読書目標(年間)を設定し、達成した児童に達成賞を贈呈

読書目標達成児童(低学年:年間 100 冊・中学年:年間 50 冊・高学年:3000P)

1 年生:83%      2 年生:55%      3 年生:81%      4 年生:52%      5 年生:83%      6 年生:70%

児童アンケート結果

- ◇1年、2年「本を読むのが好き」  
・・・A そう思う59% B だいたいそう思う30% C あまりそう思わない11% D 思わない3%
- ◇3年から6年「読書に挑戦している」  
・・・A そう思う60% B だいたいそう思う23% C あまりそう思わない11% D 思わない6%

◇「命の大切さ」「思いやり」「規範意識」等、人も自分も大切にすることを育む道徳教育の推進

- ・道徳教育全体計画・指導計画に沿った意図的・計画的な実践を通し、道徳科の充実に取り組んだ。

◇社会参画力、人間関係形成力、自己実現力を育む教育の推進(幸が森タイム)

- ・持続可能な開発目標(SDGs)に関わる課題を見だし、各教科等の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びながら、それらを解決するために必要な能力を育成する。
- ・校地や地域の自然や歴史、文化、伝統について体験的・探究的学習に取り組む学習活動を進めることにより「ふるさと学習」を推進した。  
さつまいもなどの栽培(1・2年)、地域の昔の生活(3年)、地域安全マップ作り(4年)  
稲作体験(5年)、防災、歴史学習(6年)

◇国際理解教育を推進し、進んで異文化を理解しようとする関心・意欲・態度を身に付け、異文化理解の促進

- ・外国語活動、外国語科の授業を通して、ALTを活用してコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、積極的にコミュニケーションを図り、多様な文化を理解しようとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことに取り組んだ。
- ・4年生は、東京外国語大学等の留学生との国際交流会をオンラインで実施

◇「学校2020レガシー」構築を見据えたオリンピック・パラリンピック教育の推進

- ・全教育活動を通じてオリンピック・パラリンピック教育を実施し、ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚等の資質の育成を目指した。  
プロ野球選手(6年生)、車いすバスケット選手(4年生)を講師として、講演、交流会を実施

学習指導の総括と次年度の課題

- ・児童1人一台のタブレットが配布され、大型提示装置等 ICT を活用した授業を推進することができた。授業改善を一層推進し、思考力、判断力、表現力の基礎学力の定着を図っていく。
- ・児童が授業に集中して取り組むことができる、授業のユニバーサルデザインを推進した。今後もどの児童ととも学ぶ喜びを感じる学校を目指す。
- ・読書目標を達成した児童には、新たな目標を設定し、その都度読書賞を作成し贈った。児童は読書に意欲的に取り組んでいる。
- ・日々の授業観察や児童アンケートの結果からも、児童が意欲的に学習に取り組んでいることがわかる。来年度は「読み解く力」「書く力」に重点的に取り組んでいく。

【生活指導】

◇南白糸台小いじめ防止基本方針に沿った取組

- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめや不登校などの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んだ。  
いじめに関する研修の実施(職員会議等年 3 回以上)  
いじめに関する授業の実施(年 3 回)

いじめアンケートの実施と個人面談の実施(年3回)

・スクールカウンセラー、家庭と子供の支援員、スクールソーシャルワーカーと連携し相談機能の充実を図った。

◇基本的な生活習慣や行動様式及び規範意識を醸成させ、社会生活のきまりやマナー、情報教育におけるモラルを守る指導等、教科等との関連を図った安全教育の充実

・特別活動部と連携し、あいさつ指導を全教育活動で実施

・学校のきまりを学年の実態に応じて指導し、自分と他の人の命を守る児童の意識の向上を目指した。

授業の始業前の着席 廊下や階段の歩行 学習に必要なものは持ってこない等

◇アレルギー対応委員会を中心に、アレルギーのある児童への確実な対応

◇安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動と結び付けることができる資質・能力を育成

・地震、水害等多様な想定避難訓練の実施やセーフティ教室の実施

・防災教育副読本「防災ノート～災害と安全～」 「東京マイ・タイムライン」 「府中市防災ハンドブック」等を活用

・SNSトラブルの未然防止のために、「SNS東京ノート」の活用を図り、情報モラルを指導

◇全学年で養護教諭による性に関する授業の実施(プライベートゾーンについてなど)

◇日直の中休み・昼休みの校内巡視を確実に実施し、児童の校内の安全を確認

#### 児童アンケート結果(昨年度との比較)

◇いじめや仲間はずれがなく、友達と仲よく生活している。(全学年)

・・・A そう思う74% B だいたいそう思う22% C あまりそう思わない2% D 思わない2%

AB1%減少 A そう思うが3%減少 D2%増加

◇先生は困ったときに相談にのってくれる。(3年～6年)

・・・A そう思う70% B だいたいそう思う25% C あまりそう思わない4% D 思わない1%

AB 変化なし A5%減少

◇学校で必要な物を忘れないように気を付けている。(3年～6年)

・・・A そう思う70% だいたいそう思う25% あまりそう思わない4% 思わない1%

AB1%増加 A3%減少

◇学校のきまりを守って生活している。(全学年)

・・・A そう思う64% B だいたいそう思う33% C あまりそう思わない3% D 思わない1%

AB 変化なし A8%減少

◇学校をきれいにしようと努力している。(3年～6年)

・・・A そう思う63% B だいたいそう思う32% C あまりそう思わない2% D 思わない2%

AB1%増加 A3%増加

◇自分の安全は自分で守ろうと心掛けている。(3年～6年)

・・・A そう思う80 84% B だいたいそう思う15 14% C あまりそう思わない3 1% D 思わない1 0%

AB3%減少 A4%減少

#### 保護者アンケート結果(昨年度との比較)

◆学校は、一人一人の児童への声かけを大切にしている。

・・・A そう思う29% B だいたいそう思う56% C あまりそう思わない4% D 思わない1% 分からない11%

AB3%増加 A2%増加

◆学校は、いじめや暴力をなくし、温かい人間関係になるように努力している。

・・・A そう思う28% B だいたいそう思う58% C あまりそう思わない4% D 思わない1% 分からない11%

AB6%増加 分からない6%増加

◆学校は、保護者からの相談ごとに誠実に応じている。

・・・A そう思う39% B だいたいそう思う49% C あまりそう思わない4% D 思わない1% 分からない8%

AB5%減少 A6%増加

◆児童は、集団生活に必要なきまりや約束を守っている。

・・・A そう思う31% B だいたいそう思う63% C あまりそう思わない3% D 思わない1% 分からない2%

AB5%減 A そう思う4%増 B だいたいそう思う9%減 CD1%減 分からない2%増

◆学校は、安全指導に力を入れた取り組みをしている。

・・・A そう思う34% B だいたいそう思う58% C あまりそう思わない3% D 思わない0% 分からない4%

AB 変化なし A4%減少

## 生活指導の総括と次年度の課題

- ・コロナ禍の新しい生活様式が定着し、児童はマスクの着用が通常の姿となっている。今後も手洗いの励行などコロナ禍後についても必要な習慣として取り組んでいく。
- ・コロナ禍が長期間になり、児童の心に影響があるとの意識で児童に寄り添うことを重視した。友達関係や学習で悩む児童には、スクールカウンセラーや養護教諭、スクールソーシャルワーカー等と連携し、相談できる環境を作った。今後もさらに児童、保護者が相談しやすい環境づくりに取り組んでいく。
- ・いじめに関する指導を年 3 回実施した。実施する意義を教職員が共通理解し、いじめの起きない関係づくり、いじめが起きて早期に発見し、早期に対応する学校を常に目指していく。
- ・いじめのアンケートなどを通して、児童の声に耳を傾け、丁寧な対応を目指してきた。教職員一同、一層心に寄り添う教育を意識する必要がある。

## 【体力向上】

### ◇児童が運動の喜びを感じ、体力向上につながる取組の推進

- ・体育科の授業における各学年の目標、指導計画の確実な実施
- ・体力向上部の計画に基づき、短なわ跳びを実施

## 体力テスト結果分析

### 【低学年】

- ・昨年度と比較すると、1～3 年の全ての学年で上体起こしの記録が下がっていた。また、20m シャトルランの記録も下がっているが学年が多い。自粛期間中に体感を使わずに姿勢が悪い状態で過ごしたり、家庭で運動せずに過ごしたりすることで、上体起こしと 20m シャトルランの記録低下につながったと考えられる。

### 【高学年】

- ・昨年度と比較すると、全体的に立ち幅跳びの記録があまり伸びていなかったり、低下していたりする傾向が見られる。自粛期間による運動不足が原因で、筋力向上の妨げになったと考えられる。

## 体力向上の総括と次年度の課題

- ・コロナ禍で全校集会ができない期間があり、全校でのなわとび集会や持久走の取組ができていない。校庭の密集を避けるために、休み時間の校庭遊びの呼びかけも多くしていないことも体力の低下につながっていると考えられる。今後、体育の授業の充実や外遊びの奨励、なわとび・持久走の取組を通して、体力の向上に取り組む必要がある。

## 3 全教育活動を通して

### ◇学校が地域・家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す

- ・学校便り、学校 HP、学年便り、学級便り等を通して、学校の教育活動を発信

### ◇信頼される誠実な学校を目指して

- ・学年主任、分掌主任を要とした組織的な取組により教育活動を実施
- ・信頼される誠実な学校の実現のため、教育公務員としての振る舞い(言葉遣い、来校者へのあいさつ、電話の応対、出退勤の服装等)に留意
- ・「情報セキュリティ作業手順書」の内容を確実に実施する等を徹底し、服務事故ゼロ
- ・教職員間の朝や退勤時のあいさつを励行し、活気と誠実な温かい職場環境を創造する。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を、府中市教育委員会の指導の下、迅速に徹底した対応を実施
- ・保護者からの相談やお願いには誠意ある対応を意識する。

### ◇全ての児童が学ぶ喜びを味わい、生き生きと学ぶ学校を実現するため、授業や特別活動、教室環境のユニバーサルデザインを推進

- ・特別支援コーディネーターを要として、特別支援教室と連携し、個々の教育のニーズに応じた指導が受けられるよう、個別指導計画や学校生活支援シートを作成・活用
- ・児童理解のための、生活指導夕会や特別支援全体会、特別支援校内委員会の充実

## ◇危機管理体制の充実

- ・日直の中休み・昼休みの校内巡視の徹底。
- ・様々な想定避難訓練、不審者対応訓練、セーフティ教室の実施
- ・校内・地域安全点検の実施

## ◇教職員の連携

- ・全教職員が研修・研究に励み、全教職員のチームワークにより学校の教育力を向上
- ・学年で学年の児童を育成する。学年主任を中心とした学年経営の充実  
学年のルールの統一化(学習面、生活面)  
児童理解を中心とした温かな学校・学年・学級作り
- ・昇降口が開く8時15分の教室での児童をむかえる基本姿勢
- ・担任と専科教員の連携を強化し、協働して児童の教育に取り組む。
- ・職員室と事務室との連携
- ・校務改善に取り組み、職務の効率化を図り、働き方改革を推進する。
- ・電話や来客(保護者含む)にはあいさつを励行する等丁寧に対応する。

### 児童アンケート結果(昨年度との比較)

◇学校は楽しい

- ・・・A そう思う65% B だいたいそう思う29% C あまりそう思わない4% D 思わない2%

AB1%増加 A5%減少

### 保護者アンケート結果(昨年度との比較)

◆学校は、教育方針を分かりやすく説明している。

- ・・・A そう思う26% B だいたいそう思う69% C あまりそう思わない2% D 思わない0% 分からない2%

AB5%増加 C5%減少

◆学校が育てようとしている児童の姿は、保護者が子供たちに求めている姿と合っている。

- ・・・A そう思う23% B だいたいそう思う71% C あまりそう思わない1% D 思わない0% 分からない4%

AB3%増加 C3%減少

◆学校は、学校公開や学校だより等で教育活動や児童の様子を適宜伝えている。

- ・・・A そう思う47% B だいたいそう思う47% C あまりそう思わない5% D 思わない0% 分からない1%

AB2%増加 A5%増加

◆教師は、模範となる言動を示すとともに、社会の一員として身に付けるべき内容を指導している。

- ・・・A そう思う35% B だいたいそう思う52% C あまりそう思わない3% D 思わない2% 分からない7%

AB4%増加 A9%増加

◆学校は、教職員の協力体制がとれていて、学校全体で子供たちの指導にあたっている。

- ・・・A そう思う25% B だいたいそう思う55% C あまりそう思わない6% D 思わない1% 分からない13%

AB5%増加 A1%増加

◆学校内の施設・設備は、子供たちが快適・安全に学校生活を送れる環境になっている。

- ・・・A そう思う19% B だいたいそう思う64% C あまりそう思わない8% D 思わない2% 分からない8%

AB 変化なし A6%減少

### 全教育活動を通しての総括と次年度の課題

- ・コロナ禍で常にマスクの着用が求められ、予定された行事の変更もある中で、「学校が楽しい」と答えた児童が94%である。学級活動や児童会活動を通して、与えられた楽しみではなく、創り出す楽しみの実感がもてる学校を目指して、児童と教師が共に挑戦している。今後一層、授業が楽しい、分かることが楽しいと感じる授業を目指すこと、特別活動を通して、児童に役割を持たせ、役に立っているとの自己有用感を育むことが大切に教育活動の充実に取り組んでいく。
- ・コロナ禍ではあるが、できるだけ授業の公開を実施してきた。指定された授業のみの参観となり保護者にご不便をおかけしたが、展覧会は自由参観とし、多くの保護者、地域の皆様に参観していただくことができた。
- ・来年度も公開を目指すと共に、学校だより等で児童の様子を積極的に発信していきたい。
- ・児童の安心安全な学校を目指し、体育館床全面取り換え工事、屋上防水工事等の施設修繕や警備員と協働して安全な学校を追求した。今後も一層緊張感をもって教育活動に取り組んでいきたい。